

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
（分担研究報告書）
診断されて間もない人への情報提供資材の評価と活用に関する研究
研究分担者 藤 也寸志 国立病院機構九州がんセンター（院長）

研究要旨

本年度は、本研究班として作成された情報提供資材（冊子）『がんと診断されたあなたに知ってほしいこと』の活用方法に関して議論を行った。その冊子には、診断後間もない患者へ医師等が情報提供することが求められるが、実際には提供が不十分とされていることが平易な記載で網羅されており、さらに患者をがん相談支援センターへつなぐ大きな役割を果たすことが期待される。本研究班では、医師の冊子活用意向や負担感の度合いに関して、医師へのアンケート・インタビュー調査およびがん相談支援センターへのアンケート調査が計画されている。本年度は、これらの実施の前提となる、冊子が新規に作成された経緯や冊子の利用方法などについて、どのように医師等に認識させるかの検討を行った。

A. 研究目的

がんと診断されて間もない人への情報提供のために作成された「診断後間もない人への情報提供資材（冊子）」（2022年2月公開、5月より拠点病院での利用開始）の普及と活用方法について検討する。本年度は、活用の前提となる本冊子の意義や活用方法についての医師の認識向上の方法について検討を行った。

B. 研究方法

1. 医師を中心とした現場スタッフへ、本冊子に関する説明会を開催する。
2. 冊子の手渡しと効果の検証のためのシステムを整備する。
3. 本研究班の計画である「医師への事前・事後のアンケート調査」「医師へのインタビュー調査」「がん相談支援センターを対象としたアンケート調査」へ参画をする。

（倫理面への配慮）

本研究における情報の分析・調査については、原則として匿名化したデータを扱うため、個人情報保護上は特に問題は発生しないと考える。

C. 研究結果

以下、九州がんセンターで行う予定の取り組みを列挙する。

1. 分担研究者から、がん相談支援センター所属の医師、がん専門相談員に加えて、幹部（院長・副院長・看護部長・事務部長等）へ、本冊子に関し

て説明を行い、その意義の共通認識を深める。

（がん相談支援センター所属の医師は、本冊子の作成協力者であり、看護師長と看護師は、本研究班の協力者でもあるため、既に十分認識はしている）

2. 医師を対象とした説明会の開催
各診療科部長や医長に対して、本冊子を配布し、その意義や活用方法についての説明を行う。その際に、研究班作成の動画を用いる予定である。
（2022年5月頃より開始予定）
3. 引き続き、がん専門相談員や入退院支援センター看護師等を中心として、同様の説明会を行う。
4. （2022年6月頃より開始予定）
5. 以上に加えて、がん専門相談員を中心として、全病棟に出前講座を頻回に行うことによって、スタッフ医師や病棟看護師等への認識も高める。
（九州がんセンターでは、種々の情報共有のための病棟や部門への出前講座が頻回に行われている。このような活動の土壌は培われている。）
（2022年7月頃より9月頃を目途に、各部門への説明出前講座を順次開始する予定）
6. 以上を前提として、本研究班の計画である「医師への事前・事後のアンケート調査」「医師へのインタビュー調査」「がん相談支援センターを対象としたアンケート調査」へ参画をする。

D. 考察

本情報提供資材『がんと診断されたあなたに知ってほしいこと』の活用が進めば、診断後間もないがん患者や家族にとって必要な情報が、伝わりやすくな

ると期待される。ただし、がん相談支援センターの紹介を目的としたリーフレット等はすでに作られている場合が多いにも関わらず、がん相談支援センターの周知が不十分な実態がある。このことは、本冊子を如何にしてがん患者・家族に届けるかに関しての有効なシステム整備がないと、その効果を発揮するには至らないことが予想される。そのためには、まず現場の医師や看護師に、(従来の単なるリーフレットとは異なる)本冊子の内容の理解と意義を認識させなければならない。

そのための医師・看護師等への説明会の継続的な開催は必須である。しかし、冊子を手渡せば済むという認識では不十分である。冊子の手渡し機会の増加にとどまらず、本冊子は、以下のような効果をもたらすことも期待される。

- まず、医師にとって説明が必要な項目の理解を高める。
就労支援や生殖機能温存などの説明の必要性の認識は、医師においても未だ不十分である実態を改善できる可能性がある。
- それらの説明に十分な時間が割きにくい医師にとっても、平易な言葉で示される情報は、情報提供資材として役に立つ(負担感の軽減)という認識を持つことができる。
- さらに、利用価値を認めた医師による、周辺の医師への利用促進がなされる。

E. 結論

がんと診断されて間もない人への情報提供のために作成された冊子『がんと診断されたあなたに知ってほしいこと』の普及と活用を進めることにより、情報が不足しているがん患者・家族の減少、がん相談支援センターの周知と利用の促進、さらにはその説明をする医師をはじめとした現場スタッフの負担軽減がもたせることが期待される。そのための配布のための確固たるシステム整備が求められる。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表

I 著書 なし

II 総説

1. 藤也寸志が「がん医療の現場から医療情報の提供体制を考える」九州外誌 2021;5:1.

2. 藤也寸志,渡邊雅之,松原久裕,土岐祐一郎.特別企画「各疾患登録と NCD の課題と将来」NCD における食道がん全国登録への期待と問題点. 日外誌 2021;122(6):716-718.

III 原著

1. Toh Y, Hagihara A, Shiotani M, Onozuka D, Yamaki C, Shimizu N, Morita S, Takayama T. Employing multiple-attribute utility technology to evaluate publicity activities for cancer information and counseling programs in Japan. Journal of Cancer Policy. 27:100261, 2021
2. Takayama T, Yamaki C, Hayakawa M, Higashi T, Toh Y, Wakao F. Development of a new tool for better social recognition of cancer information and support activities under the national cancer control policy in Japan. J Public Health Manag Pract. 27: E87-99, 2021
3. Takayama T, Inoue Y, Yokota R, Hayakawa M, Yamaki C, Toh Y. New Approach for Collecting Cancer Patients'Views and Preferences Through Medical Staff. Patient Preference and Adherence. 2021;15:375-385.
4. Toh Y, Inoue Y, Hayakawa M, Yamaki C, Takeuchi H, Ohira M, Matsubara H, Doki Y, Wakao F, Takayama T. Creation and provision of a question and answer resource for esophageal cancer based on medical professionals' reports of patients' and families' views and preferences. Esophagus 2021;18:872-879.

IV 症例報告 なし

V 学会発表 なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし

2. 実用新案登録 なし

3. その他 なし